Misima Sawaji Industrial Park Support Communication

団地だより

三島沢地工業団地協同組合

2019 1月発行 第42号

新年抱負

鈴木基良理事長（ドーワテック(株)社長）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年末　三島市長選で現職の豊岡市長が再選され、市政継続となりました。市長選前には、その言動で世間を騒がせ それが票の分散に繋がったと考えられます。日本政府もそうですが、政権が長期にわたる弊害もあるのかもしれません。
昨年を振り返ると、1月成人式に、はれのひ㈱が、新成人の希望を打ち砕く無責任さで事業を停止しました。スルガ銀行のシェアハウス不正融資問題・大手製造メーカーの製造品検査の偽装等、そして日産自動車のカルロス・ゴーン会長の逮捕。多かった自然災害関連を忘れさせるほどの人災があったわけです。これから企業や人のモラルと言うものを真剣に考えなければいけない時代に来ていると思います。
今年は、天皇即位・参院選・統一地方選や消費税増税が予定され、人・企業にとってもいろいろな変化がありそうです。企業人として襟を正し、2019年を迎えて行きたいと考えています。本年の組合員皆様のご多祥をお祈り申し上げます。

亀谷泰一副理事（カメヤ食品(株)社長）

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、多くの自然災害が発生し、保護主義の台頭、米中貿易戦争の勃発、原材料の高騰や不足、人口減少にともなう労働人口の問題など、リスク対応に追われた一年だったように感じています。
今年は30年余り続いた平成が終わり、新しい時代の幕が上がります。時代の急激な変化に対応できる感性・想像力を磨き、万が一に備えながら、希望を持って、人として日々しっかり行動していく一年にしていきたいと考えています。
環境整備委員長としては、今年は三島沢地工業団地の清掃や環境保全活動以外に、各会社の社員さんが生きがいを感じながらワクワク働ける環境づくりができないか考えています。皆様が自然を体感しながら息抜きをできる場所や、ウォーキングやハイキングなどが手軽に楽しめる環境を整えられないか？そんな思案を楽しむ一年にしたいと思います。
皆様とご家族のご健勝とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

関本芳英副理事（東海金属工業(株)社長）

組合員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年は春には新元号になり、秋には消費税UPと変化の多い年となります。弊社は自動車関連の仕事が70%くらいを占めていますが、昨年あたりから環境に配慮した電気自動車への転換や軽量化が急ピッチで進み、それに伴い部品の構成品も大きく変わろうとしています。現行設備ではできない大きさや形状、材質の変更など様々な変化が表れてきています。しかし、構造や部品の今後の主流は定まっていない状況があり、今年はそのあたりの情報収集をし、設備投資の必要性等を見極める年にしたいと思います。
一方で、近年は地震、台風、豪雨などの自然災害で毎年のように大きな被害が出ており、南海トラフ地震も心配されています。亥年は古くから宝永山噴火、関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災など歴史的な災害の多い年でもあるので、早急に防災、減災対策を推進していきます。
最後に組合員各社の益々の発展を祈念しまして新年の挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い致します。

Misima Sawaji Industrial Park Support Communication
2019 JAN 42号
団地だより
三島市平成台2番地
三島沢地工業団地協同組合事務局発行

救命講習を行いました

H30年11月27日

今年も富士山南東消防本部とボランティアさんにご協力をいただき、「救命講習」を行い、突然、心臓や呼吸が止まってしまった人を救うための、胸骨圧迫と人口呼吸（心肺蘇生法）、AEDの使い方を学びました。

今回の救命講習はDVDを使い、まず基本的な心肺蘇生方法の説明を映像で見させていただき、その後数人ずつのグループに分かれて実際に実践していきました。

皆さん真剣に取り組まれ、最後は全員ができるようになりました。

ランニングなどの運動中に特に起きやすいと言われる心室細動は、心臓の筋肉が突然、不規則にけいれんして血液を送り出せなくなる症状です。心臓の脈拍を正常に戻すには電気ショックで心臓のけいれんをいったんリセットするのが効果的だと言われています。

AEDは倒れた人の胸に電気パッドを貼れば電気ショックが必要かどうか音声で教えてくれるため、医療知識がなくても簡単に使えるものです。必要なければ作動しないので、いざという時は使用をためらうことなく使いたいです。

今回もたくさんの方にご参加いただきました。ご参加ありがとうございました。

おめでとうございます！

このたび「フード・ドリンク部門」で、明治食品工業㈱「春吉富士」が見事準グランプリを受賞しました！

明治食品工業㈱
「ふるさと祭り東京」おみやげグランプリ
準グランプリ受賞！

おみやげグランプリは国内から海外まで誰もが喜んでもらえるような「おみやげ」を日本全国各地より募集し、日本の魅力を再発見できるような逸品を発掘するものです。日本の伝統から最新の技術やデザイン、名産、食などを紹介し、日本及び地域のブランドの振興を図ります。

エコアクション21　中間報告

電気主任　渡邉

エコアクション21
認証番号0011652

1.更新審査の受審

規格の改訂がされたため、2017年版での書類審査を平成30年11月23日(金)、
現地審査を12月5日(水)に、土井審査員により実施しました。

2.改訂版の特徴

項目が追加　「経営者による経営における課題とチャンスの明確化。」(判定結果)

審査で確認された課題とチャンス		
	事業者の内部に起因するもの	事業者の外部に起因するもの
経営における課題 (事業上の弱み、問題点等)	(1)リソース(ヒト・モ・ノカネ)が限られている (2)組合支援活動は収益性に結びつかない ⇒効果的、効率的な取り組みが必要	(1)パリ協定の発効、SDGsの採択 ⇒脱炭素化、誰一人取り残さない ⇒全員参加でCO2排出削減、水リスク低減 (2)気候変動への適応 ⇒災害への対応、防災支援
経営におけるチャンス (事業上の強み、有利な点等)	(1)組合企業は高付加価値創出の企業群(環境先進企業への期待が大きい) ⇒環境活動への潜在的モチベーションが高い ⇒産官学連携による人材の育成	(1)パリ協定の発効、SDGsの採択 ⇒CSVアプローチにより、団地組合の価値向上 (2)三島市環境先進都市構想 ⇒景観、緑化を大切にする工業団地の価値向上

3.環境経営レポート(4-1)の改訂

審査での指導・数値の訂正を行い、
CSRをSCV（Creating Shared Value（共通価値の創造））にしました。

4.目標・計画の実績(2018.4-12)

項目	単位	基準 (2017.4-12)	実績 (2018.4-12)	増減量(%)
二酸化炭素排出量(団地分)	T-CO2	774.7	752.0	-2.9%
電気	KWh	7,972,992	8,127,180	1.9%
	T-CO2	377.9	385.2	
ガス	m3	177,602	164,187	-7.6%
	T-CO2	396.8	366.8	
一般(焼却)廃棄物排出量	Kg	16,040	16,255	1.3%
水使用量　(上水+工水)	m3	71,563	70,578	-1.4%
二酸化炭素排出量(組合分)	T-CO2	6.6	6.3	
電気	KWh	138,735	133,886	-3.5%
環境関連法の調査・支援	件	4	2	
産業廃棄物管理票報告(県廃棄物課) 変電設備変更(再提出含め)届(富士山岳南消防署)				
自然環境に配慮した活動・支援	件	3	3	
照明器具のLED化(神芝エンジニアリング)、外壁塗装(山田製作所) 調整池の草刈り・水草の除去				

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は組合事業につき格別のご高配を賜り有り難うございました。また、本年も引き続き宜しくお願い申し上げます。

平成31年（2019年）の干支は「亥（いのしし）」年で、「己亥（つちのと・い）」に当たります。己（つちのと）は草木が成長を終えて形が整った状態を指すそうです。亥（い）は十二支の最後にあたり、草や花が枯れ落ちて、植物の生命が引き継がれて種の中にエネルギーがこもっている状態といいます。

つまり、2019年己（つちのと）の年は、完成した自己や成熟した組織が、足元を固めて、次の段階を目指す準備をする年と言い換えることができます。

また、元号が変わる節目の年でもあり、保護主義、新興国の金融不均衡など、不確実性高い事は事実ですが、AIやIotの技術革新が業界地図を大きく変える可能性もあります。

組合員の皆様におかれましては中小企業がその神髄である俊敏で柔軟な対応力を発揮し着実に前進する年となるよう祈念いたします。
（事務局長）

三島市へ要望の団地内公共施設整備　終了しました

昨年5月に三島市長に要望した、工業団地調整池内沈砂池の浚渫、団地内車道センターラインの整備及び沢地川側道（管理道路）沿いの整備が終了しました。

団地内道路のセンターラインが見違えるほどきれいになりました。

センターライン引き直しは5月下旬に終了、沢地川側道の整備・調整池沈砂池の整備も猛暑・秋季の長雨から着手が遅延しましたが、11月下旬にようやく終了いたしました。

沢地川側道も巨大化した草木が刈られ、車が通りやすく、人も歩きやすくなりました。

長年手つかずの状態であった調整池沈砂池の整備および浚渫は組合側の要望通りではなかったものの、貯水能力の改善に大きく寄与されたものと考えられます。

三嶋市長への要望は、昨年、カメヤ食品亀谷会長（元組合理事長）はじめ鈴木理事長・福田元副理事長（昭立電気工業㈱会長）・亀谷副理事長（カメヤ食品㈱社長）、組合事務局川村の5名で豊岡三島市長に対し行ったものです。

組合や三島市に対する要望事項がありましたら是非お知らせください。